

令和8(2026)年度 下都賀地区特別支援教育研修会を開催しました

日時 令和8(2026)年7月30日(木) 13:30～16:00

会場 小山市桑市民交流センター「マルベリー館」(多目的ホール)

対象 下都賀地区小・中・義務教育学校教員

(希望者:特別支援教育担当教員や通常の学級の担任等)

I 研修の目的・内容

(1) 目的

通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対する理解を深め、事例等を通じた具体的な研修を行うことにより、安心感を高める指導・支援の充実に資する。

(2) 内容

ア 講話「インクルーシブ教育の推進」

下都賀教育事務所 庄司 秀樹 インクルーシブ教育エリアコーディネーター

イ 協議 ・ インクルーシブ教育の視点でこれまでの実践を振り返る
・ これからの実践にどう生かすかを考える

2 本研修で確認したこと

(1) 特別支援教育の推進について

ア 栃木県の取組:「とちぎ教育ビジョン 2026-2030」(多様なニーズに対応した教育の充実)

イ 下都賀地区の取組:下都賀地区学校教育の重点

「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育」

(2) 「インクルーシブ教育の推進」

ア インクルーシブ教育の背景・動向・考え方

- ・ サラマンカ声明
- ・ 子どもの権利
- ・ 多様性の包摂



イ インクルーシブ教育の視点

- ・ わかる
- ・ つなぐ
- ・ まとめる



ウ インクルーシブ教育の実践と目指す方向性

- ・ 良循環



3 本研修会での学び（参加者が記入した「振り返り」から）

- ・ インクルーシブ教育は、「わかる」「つなぐ」「まとめる」のどれも欠けてはいけなし、相互に関わり合いながら進めていくことが大切だと学びました。
- ・ 今回の講話や協議を通して、「わかる」「つなぐ」「まとめる」のキーワードが印象に残りました。日々多くの子どもたちと関わる中で、配慮が必要な児童だけでなく、全ての児童に対して3つの働きかけを丁寧に行い、学級内の少数派にとっても多数派にとっても居がいのある学級・授業づくりを行っていきたいと思いました。
- ・ インクルーシブ教育はわかる・つなぐ・まとめるがポイントで、人権教育にも通ずると思いました。みんなが認め合える、学びに向かえる、そんな学級経営をするには、教師の児童理解や児童と児童をつなぐファシリテートの役割をすること、児童理解ができているからこそできる未然防止やフォローが大切であることを改めて再確認しました。今回の学びを自分だけでなく、学年や若手にも共有していきたいと思います。
- ・ 普段の教育活動の中で、少し苦手のある児童に対し意識していたことがインクルーシブ教育につながっていたと気づき、改めて一人一人を大切にしたい授業づくり、集団づくりを心掛けたいと思いました。
- ・ 「追求し続けること」がインクルーシブ教育の根源であり、教師の仕事の面白さであり、責任でもあるということが本当に心に残りました。経験を重ねても、今まで出会った先生方のように、例年通りではなく、今年の子どもたちの実態に合わせて更新していきたいと思いました。
- ・ 今回の講話や協議を通して、インクルーシブ教育は特別な支援を必要とする児童だけでなく、全ての児童が安心して学び、互いの違いを認め合いながら成長できる学級づくりを目指すことが大切であると学びました。今後は、一人一人の実態に応じて学び方や支援の方法を工夫するとともに、児童同士が自然に助け合える環境づくりを意識していきたいです。
- ・ 交流学級での活動に向けて特別支援学級での活動が生かせるように、基礎・基本の力をつけること、子どもがいろいろなシチュエーションの中で自分で選択し判断できる力をつけることを目指していきたいです。そのために、教材・教具・語りかける言葉を考えながら寄り添い、よき「伴走者」になっていきたいです。
- ・ 学習指導や生徒指導において、生徒の「うまくいっていること」を生かし自己肯定感を高めながら指導していきたいと感じました。生徒一人一人がいいきと学校生活を送れるように、今回の研修で学んだことを実践し、教職員間でも情報共有等を行いながら様々な視点で生徒と関わっていききたいです。
- ・ 今回の研修で、中学校の先生と協議する時間があっただけで、中学校（教科担任制）ならではの特別支援教育の進め方をお聞きする機会となり、勉強になりました。
- ・ 講話を聞き、自らの児童への接し方を振り返ったり、他の先生と話し合ったりする時間があつたことで、不足していることや今後取り組みたいことを明確にすることができました。
- ・ 学校全体（教員全員）が、インクルーシブ教育を念頭に入れて同じ尺度で児童への指導、支援にあたっていくことが必要だと思いました。

